

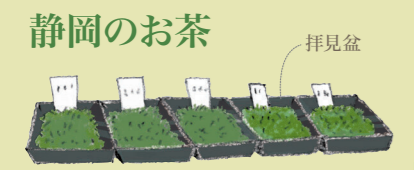


東海道のなかでも一二を争うほどの大きな宿場でした。この町割り(都市計画)の立案者は徳川家康公で、秀忠公に將軍職をゆずりつつも政治を主導していた大御所時代に築いた町です。

**静岡浅間神社**  
駿河の国の総社(神社・祭神を集めて祀る)であり、神部神社、浅間神社、大歳御祖神社の三社を総称して静岡浅間神社といわれています。他にも家康公が元服した八千戈神社などあり、家康公崇敬の神社として歴代將軍の祈願所になっていました。幕府が60年もの歳月をかけて建設した境内の建物、26棟は国の重要文化財となっています。



好き勝手に流れる安倍川の流れを変える大工事をしたのは薩摩藩。車馬が通れる高さ3mの土手をつくりました。



**静岡のお茶**  
茶畑から採った茶葉は生き物です。熱を発生、発酵してしまうので、採ったらすぐに蒸すなどの熱処理を行います。  
実はこの時の蒸し時間がお茶の「味・香り・色」を決めるといわれており、蒸したお茶をさらに揉んで、乾燥させたものが「荒茶」です。



**駿府九十六ヶ町 町紹介**  
家康公は町割りを行った際、職人たちを職業ごとに住ませました。それを駿府九十六ヶ町といいます。現在町名碑の整備が進んでいます

- 車町(くるまちょう)**  
牛車で荷物を運ぶ商人の町。牛車は駿府以外では許されなかった。のちに駿府城の補修を行う建築関係者が多く住むようになった。
- 桶屋町(おけやちょう)**  
この町の桶職人は、家康公をかまくった褒美で嫌いな片付けをしなくてすむようになったそう。諸役御免、出張仕事も片付け御免だったそうです。
- 土太夫町(とだゆうちょう)**  
浅間神社を管理していた人が住んでいた。
- 研屋町(とぎやちょう)**  
家康公が伏見から呼び寄せた刃物の研師が住んでいた。現在は建具、家具、仏具などを作る人が多い。
- 金座町(きんざまち)**  
小判が作られていた場所。日本で唯一この町名が残っているのはここ静岡だけです。

**1 華陽院**  
当初は「知源院」といい家康公はここで手習いを学びました。8歳からの人質時代に愛情豊かに支えた祖母源応尼と娘市姫の墓があります。源応尼が亡くなった時、戦場にいた家康公は自分の代わりに三河松を託して見送りました。残念ながら昭和15年の大火で焼失しましたが、徳川家により二代目が植えられています。家康公は祖母の50回忌を営んだ際、その法名である「華陽院殿」をもとに寺名を定め、以降、参勤交代の大名たちはこの寺と久能街道を下り東照宮で参拝したそうです。

**2 貫目改所跡**  
東海道は宿場ごとに人馬を交代して運ぶ「伝馬制」により、物資が運ばれていました。その物資の重さを測り、運賃を定める検問所が貫目改所です。東海道では品川宿、府中宿、草津宿に設けられていました。

**3 西郷・山岡会見の史跡**  
山岡鉄舟と西郷隆盛が徳川家との存続と江戸城を戦うことなく明け渡すことを話し合った場所です。3月7日官軍に追われた山岡鉄舟を薩埵峠の望嶽亭の当主が助け、清水の次郎長が匿い、9日の会談に送り届けた…と地元ではいわれています。

**4 駿府城公園**  
明治19年、互助、共助の社会を目指すことに賛同し建てられた。当時は右側が「尋ねる方」左側が「教える方」の答えを寄せあうことができた

**5 浮月楼**  
2代將軍秀忠公の生母の墓があります

**6 宝台院**  
2代將軍秀忠の生母で家康公の信頼も厚かった「西郷局お愛の方」の菩提寺で秀忠公が母のために霊廟、寺を建てました。寺の書院は二条城のような床の間、壁面には豪壮な絵が描かれていました。建物は国宝に指定されていましたが、昭和の大火で消失してしまいましたが、本尊は残り、国指定重要文化財となっています。

**町紹介**

- 伝馬町(てんまちょう)**  
江戸時代、参勤交代の大名が宿泊する本陣や宿場の中枢機能が集まっていた町。
- 鑄物師町(いもじちょう)**  
家康公御用達の鑄物師の町、のちに清水(江尻宿)へ移転し、今は残っていません。
- 両替町(りょうがえちょう)**  
東京銀座のルーツはここです。家康公は京都から銀座を移し、銀の鑄造をさせました。江戸に移された後も出張所として扱われていました。

かんめあらためじょ

**2 貫目改所跡**  
東海道は宿場ごとに人馬を交代して運ぶ「伝馬制」により、物資が運ばれていました。その物資の重さを測り、運賃を定める検問所が貫目改所です。東海道では品川宿、府中宿、草津宿に設けられていました。

**4 駿府城公園**  
今川家が築いた居城は1568年武田信玄により消失し、駿府の町は1582年まで武田氏の支配下でした。1585年家康公は築城をはじめ1589年までに二の丸まで完成させた後、国替えのため江戸に移っていききました。1605年、家康公が將軍職を譲り、大御所政治の拠点として再び戻ってきた後、1610年には天守を完成させています。現在、発掘調査が進められ、東御門、異櫓、坤櫓、紅葉山庭園など見学でき、市民

の憩いの場となっています。  
見学施設  
●9:00~16:30 ●月曜日年末年始 ●全施設共通券大人360円

**5 浮月楼**  
府中は徳川家光公の弟、忠長公が自刃した後は幕府の天領となり、江戸から代官が赴任し治めていました。ここは代官屋敷跡です。明治時代には政府に接収されましたが、徳川家所有となり幕府最後の將軍、慶喜公が明治21年(1888年)まで住んでいました。建物は火災等で残っていませんが、庭園は平安神宮も手がけた庭師による池泉回遊

式で慶喜公が愛した庭として名高いものです。また、戦国時代のキリシタン灯籠などもあります。

**6 宝台院**  
2代將軍秀忠の生母で家康公の信頼も厚かった「西郷局お愛の方」の菩提寺で秀忠公が母のために霊廟、寺を建てました。寺の書院は二条城のような床の間、壁面には豪壮な絵が描かれていました。建物は国宝に指定されていましたが、昭和の大火で消失してしまいましたが、本尊は残り、国指定重要文化財となっています。

R8.3月 静岡二峠六宿街道観光協議会 駿河歩人研究会

